

アジアオセアニアてんかん学会議(AOEC)

第12回 AOEC 報告と、第13回(2020年)の日本での開催に向けて

池田昭夫

(京都大学大学院医学研究科てんかん・運動異常生理学講座教授,
日本てんかん学会理事長)

人見健文

(京都大学大学院医学研究科臨床神経学(神経内科),
臨床病態検査学講師(検査部))

松橋眞生

(京都大学大学院医学研究科てんかん・運動異常生理学講座准教授)

音成秀一郎

(京都大学大学院医学研究科臨床神経学(神経内科),
広島大学大学院脳神経内科学)

十河正弥

(京都大学大学院医学研究科臨床神経学(神経内科))

梶川駿介

(京都大学大学院医学研究科臨床神経学(神経内科))

(第12回) 2018年6月28日(木)～7月1日(日)：インドネシア・バリ島

(第13回) 2020年10月8日(木)～11日(日)：福岡

1 第12回アジアオセアニアてんかん学会議(AOEC) 報告

池田昭夫, 人見健文, 松橋眞生,
音成秀一郎, 十河正弥, 梶川駿介

第12回アジアオセアニアてんかん学会議(Asian and Oceanian Epilepsy Congress : AOEC)が、インドネシアのバリ島で、2018年6月28日～7月1日の3日間開催された。AOECは、国際抗てんかん連盟(the International League Against Epilepsy : ILAE)のアジア・オセアニア地域の支部をまとめるアジア・オセアニア地域委員会(旧CAOA, 現在ILAE-Asia Oceania : ILAE-AOと呼称)が中心となって2年ごとに開催されており、過去には第4回が日本(軽井沢)で開催された。CAOA派、当初AOEO(Asian Oceanian Epilepsy Organization)として1996年に立ち上がり、その発足には、日本てんかん学会(Japan Epilepsy Society : JES)元理事長の故 清野昌一先生のご尽力が大きく、1990年代にアジア領域での組織化が図られた。その詳細な経緯は、JES元理事長の八木和一先生が、文献²⁾に記載

されているので是非ご参照いただきたい。

2018年に開催された第12回では、初日の6月28日にバリ島北東部にあるアゲン山が噴火し、空港が一時閉鎖されて一部の演者が参加できなくなり、学会の最終日まで空の便が乱れ、帰国が遅れるなどのトラブルがあった。しかし、最終的な参加者は1,200人近くへのほり、抄録の登録も450演題を越すなど、大変な盛会となった。さらに、ILAE-AOの体制のなかでの教育委員会として、同地域でのてんかん学教育プログラムを行うアジアてんかんアカデミー(ASEPA)が、毎日午前中に教育講義を行い、午後にはILAE会長のS. Wiebe先生が自ら座長を務め、若手の研究者に、学会発表や論文投稿の丁寧なワークショップが行われていた。

AOECには、JESの貢献を象徴する2つの企画があり、ひとつは故 清野昌一先生のアジア・オセアニア領域でのてんかん学の発展のために尽くされた多大なる貢献を讃えて、Seino memorial lectureが、2008年の第7回AOECから制定された。2008年は故 福山幸夫教授、2010年はSimon Shorvon教授、2012年はJean Gotman教授、2014年はSamuel Bekovic教授、2016